

平成28年 6月20日総務財政委員会

◆西 委員 おはようございます。ソレイユ堺の西でございます。久しぶりの総務財政委員会でございますので緊張しておりますけれども、進めさせていただきたいと思っております。

今回は3項目にわたって質問させていただきたいと思っておりますが、春の建設委員会で、私、建設委員でしたので取り上げさせていただいたテーマ、総務財政に移って少し1項目させていただきたいと思っております。

突然、ベロシティ・グローバルについてという項目が通告の1番目に出てきて、多分、前建設局長の柴市長公室長以外は何を言うてんだと思いつつ聞かれてるかなと思いますけれども。実は、春に台北で自転車の世界会議が行われまして、強行軍で少しのぞいて帰ってきたわけでありまして、このベロシティ・グローバル、日本の誘致が起き得るならば、日本に誘致しようという動きが今ありますので、この日本の誘致があるならばという前提でありますけれども、あるならば、ぜひその堺へ誘致をしていただきたいと思いますという話を春の建設委員会でさせていただきました。

そういった中で、当時、市長からまだまだ研究しなきゃいけないことはたくさんあるけれども、前向きに考えていきたいというような趣旨の御答弁をいただいたというふうに認識をしております。そんな中で、ベロシティのグローバル・イベントの内容について改めてお示しをいただきたいと思いますと思っております。

◎金本 企画推進担当課長 ベロシティ・グローバルとは、欧州自転車連盟が主催いたします世界最大の自転車国際会議でございます。この会議は、奇数年は欧州、ヨーロッパの都市で、偶数年はヨーロッパ以外の都市で年に一度開催されることになっております。ことしは2月27日から3月1日の4日間にわたりまして、世界五十数カ国・地域から1,000人を超える自転車の研究者、有識者、愛好家などが、開催地である台湾の台北市に集いまして、併催のサイクリングツアーや展示会等の各種イベントも行っております。そちらの各種イベントのほうには、4,000人規模の参加者があったというふうに仄聞しております。以上でございます。

◆西 委員 すごく大きなイベントだったわけでありまして、そもそも、堺市民芸術文化ホールを建てかえるときについても話題になってましたし、本市は政令指定都市として国際会議というものを誘致しようということは掲げて、さまざまな場所で、大都市ゆえにといいですか、そういうことを誘致することは大事なんじゃないかということで掲げてやってこられたわけであると思っておりますけれども、国際会議誘致の政策的意義について、どの

ように当局としてお考えか、お示してください。

◎金本 企画推進担当課長 国際会議とは、日本政府観光局の定義によりまして、主催者が国際機関、国際団体で、総参加者数が50名以上、日本も含めて3カ国以上が参加いたしまして、1日以上開催される会議というふうになっております。こちらの国際会議の意義といたしましては、第1に、会議の趣旨、内容が世界に発信されることによりまして、地域の知名度が向上する、さらに、会議のその政策目的が地域に根つきやすくなるということが挙げられると思います。例えば、地球温暖化会議などの際に、都市名がかぶさった宣言などが発信されますことで、地域の環境意識が高まるというふうなことが挙げられると考えます。

さらに、副次的な意義といたしまして、出席者や関連イベントの参加者の宿泊、事業支出、事業の本体の支出、あるいはその周辺の観光等によりまして消費支出が発生するというところで、これらの経済効果に加えまして、認知度や魅力度、都市魅力の向上といった都市の情報発信力の強化、このようなものが挙げられると考えられます。以上でございます。

◆西 委員 さまざまなメリットを今挙げていただいた、繰り返しは避けませんが、さまざまなメリットを挙げていただいたことが、やはり大都市ゆえにできる力もあるからこそやる意味があるということなんだと思いますけれども、国際会議誘致の開催国や場所を決める要素としては、どういうものがあるかお示してください。

◎金本 企画推進担当課長 国際会議には、小規模なものから大規模な会議までさまざまな種類がございます、特に大規模な会議になりますと、収容人員を中心といたしました開催地のインフラ整備が重要な要素として挙げられます。そのほかにも、主催者の趣旨とか立場、あるいは併催される会議やイベントの種類、あるいはその規模といったものもあわせて考慮に入れまして、総合的な開催計画や支援体制が必要とされております。

そのためには、都市のその会議施設、あるいは宿泊施設、宗教とか嗜好に配慮した料飲サービス、提供サービスですね、あるいは展示施設とかパーティー会場、空港と会場あるいは都市内とのアクセス性、それから同時通訳が必要な場合もございますので、そういう語学インフラ、あるいは地域のホスピタリティーといった人的サービス、さらには参加者に対するエクスクーシヨンの、エクスクーシヨンを示す先ですね、などのこういった地域資源を事前に把握しておく必要があるというふうにされております。以上でございます。

◆西 委員 いろいろと国際会議を開催するに当たっては、非常に負担も大変だなと思

うところでありますが、とはいいいながら、堺市は国際会議をやるためにこういうさまざまな人的サービスやハードの整備ということを、いろいろと国際会議を誘致できるような能力をつけるべく取り組んできたところだと思うわけでありまして、まずは日本誘致がされるかどうかまだ現段階ではわかりませんので、そういうことをまず日本の国交省を初め政府機関がまず頑張ってくださいということが必要になってくると思いますけれども、その中で、仮に今日本に誘致しようときまざまな方が東京を中心に、どこでやるという、日本のどこということよりも日本で誘致をするということ、今頑張っていらっしゃる方もたくさんいるようにお聞きをしておりますけれども、仮に日本で誘致をする、その中で、じゃあどこでやるかということになったときに、堺でやるべき、やりたいな、やれたらいいなということをお聞きをしておりますけれども、ベロシティ・グローバルのイベントを堺で開催をできるとするならば、その意義についてどのようにお考えか、お示してください。

◎金本 企画推進担当課長 さきに申し上げた経済効果や情報発信力の強化、あるいはその趣旨、内容が世界に発信されるというようなことがございます。さらに、本市は世界的な自転車部品メーカーが立地しておりますのに加えまして、さらに優秀な、その自転車関係の技術力を有する中小企業が非常に多く集積しております、いわゆる自転車のまちでございます。これら展示会とか商談会が併設されるイベントができれば、さらにこれらのビジネス機会の向上によりまして、地域の活性化が期待できるのではないかとこのように考えます。以上です。

◆西 委員 ぜひ、自転車のまち堺であります。それについては多くの方々が、もはや異論のないところだと思います。

また、私、1期目のときにドイツに行かせていただきました、海外視察に行かせていただいたときに、ドイツの各市の、それこそここにいらっしゃるような理事者の皆さんにお話を聞いて、堺に来てくださいねと言ったら、ああ、わかりました。行きます、行きますと、トーンがこういうトーンで、社交辞令の域を脱しないなというニュアンスの中であのトーンが、ぜひ行けたら行きたいですねみたいなぐらいのやわらかいトーンなんですけれども、堺に来れば、実はあの皆さんの乗ってる自転車の部品のそのメーカーさんのあるところですよ、実は皆さんの乗ってる自転車は堺から部品がいっぱい来てるんですよ。ええっ、そうなんですか。僕の自転車もそのメーカーだというような声が突然、各理事者さんから前のめりになって出てくる、ぜひ堺に行きたいというような反応が出てくることは非常に、最初はどうかと思って、少し言ってみようと思って言ってみたら物すごい反応だったので、途中からは、一緒に行った全ての議員さんがもう真っ先にその話を言うようになったわけでありましてけれども、それぐらい自転車と堺というまちを結びつけたときに、堺に対して反応は強くなる

んだなと思っておりました。

それはもう本当に、日本国内で言うより、実はドイツで言ったときの反応のほうがはるかにすごかったので、非常に驚いた次第でありますけれども、そういったことも含めて、せっかく国際会議を誘致しようということであれば、その中で堺の持ち物、これは自転車だけじゃないと思うんです。世界遺産の話もありますけれども、さらには包丁とか、ほかにもいろいろと挙げれば切りがないですけれども、さまざまな堺の持ってるブランド資産といますか、特性の中で国際会議を誘致をしていくべきなんだと思います。堺があんまり関係のないテーマで誘致をするのではなくて、やはり近いテーマで誘致をしていただきたいなど、そのほうが強いと思いますけれども、そういった意味で、自転車のまち堺として、ぜひ大会を誘致をしていただきたいと思いますけれども、お答えをいただけますでしょうか。

◎金本 企画推進担当課長 資料によりますと、開催に向けまして、まず主催者である欧州自転車連盟に登録料として3,000万円、さらにこのイベントの経費が総額で1億5,000万から2億円かかるというふうに伺っております。また、これだけの併設される多数のイベントもございますので、これらを同時開催するためには相当のマンパワーが必要となってまいります。また、本大会誘致には、委員お示しのとおり、国内外の都市も今現在、誘致に向けて水面下で動きをしておるということを知っておりますので、まず国が日本開催に対して賛同していただくこと、さらには財政的な支援を御用意いただくことというのが必要になってくるかと思えます。

さらに、場所の選定やコスト、場所の選定ですね、さらにコスト、マンパワーの負担、費用対効果、これらの大会をめぐる種々の要素につきまして、府下の自治体に加えまして、さまざまな業種業態の企業、あるいは自転車関連団体の人的、財政的な協力が不可欠であると考えております。

したがって、まずは庁内関係部局や国、府下自治体、大阪府や府下の自治体ですね、それから民間企業、国際、いやいや、済みません、民間企業、各種団体などからまずはヒアリング等をさせていただきたいと考えております。以上でございます。

◆西 委員 いろいろと大変な部分もあると思いますが、特に多分財政的な話と、それからさまざまなマンパワーの話なんだと思います。何でもかんでもお金を使いなさいとは、僕は議員をさせていただくに当たってそんなことは言いたくないなと思っておりますけれども、約3,000万登録料、私、台北に行かせていただいて、これは外貨建てですんで正確な金額ではありません。約、参加料が3万弱を参加料として、登録料として払いました。先ほどは参加者1,000人という、全体で4,000人で、会議には1,000人という御紹介をいただきましたけども、1,000円掛ける3万という数字を理解していただくと、

おのずからわかっていただける部分はあるかなと思いますし、各ブース出展もありますから、そういった意味でいろいろとやり方は、方策はあると思います。

堺で会議をやるということで、この質問をさせていただいたときにも申し上げさせていただきましたが、その世界の会議を日本でやると、その場所が堺であるということですから、堺の中で、堺の中のお金だけで全部やらなくちゃいけないということではないと思うんですね。東京にもさまざまな自転車にまつわる、ファンドではありませんけど、さまざまな財団がありまして、そういうところの応援をお願いするというのも大事だと思いますし、日本という単位で応援をしていただくということも、いろいろと努めていただけたらなと思っております。また、さまざまなマンパワーと。ただ、これ、自転車の会議をやりましょうということが先なんではなくて、国際的な会議を堺では施策としてやろうということを書いてきました。その中で、そのテーマとして、自転車があるんじゃないかということをお願いさせていただきたいと思っております。

この通告をさせていただいたときに、まずいらっしゃってくださったのは自転車まちづくり部でありました。ただ、先ほど申し上げるように、自転車の会議という入りではなくて、国際会議という入りでぜひお願いしたいと思っておりますから、そういった意味で、建設局長だった柴さんが市長公室長になってくださって、いろいろ、両方のテーマを理解していただきながら進めていただけるかなと期待をしております。そういった意味でお願いしてないですけど、前向きなお答えを、公室長、お願いできませんでしょうか。

◎柴 市長公室長 私、建設局長1年目のときに、自転車のまち堺を推進したいということで、自転車まちづくり部というのをつくりました、2年目の4月から。というて、自転車と言うていながら、実は先ほど委員のほうからお話ありました、ことしの2月の議会の委員会のときにベロシティという名前を聞きまして、何やそれはと。ベロというのは自転車のことやということ聞きまして、まだまだ自分自身勉強不足やなと反省したところですよ。先ほど、うち、担当課長が申し上げておりましたように、やっぱり大事なものは、目的をしっかり押さえなあかん。だから、自転車のというんやなくて、やっぱり委員おっしゃるように、国際会議を堺でする意義が大事かなと私も思います。

その中で、個人的なあれなんですけど、国際会議をやるに当たって思いますのは、やっぱり堺だけでやるのではなくて、やっぱり自治体においても大阪を初めとして、特に我々泉州9市4町一緒になってできないかと思ってますし、特に民間企業もです。特に自転車産業になりますいろいろなマッチングもあると思うてますので、そんな中で国際会議をやるに当たりましては、本市、牽引するんはというのはありますけども、本市だけでなく各自治体、また民間企業、こういったところとしっかり、いつも水平連携とか言うてますけども、連携をすることが第一だと思てますので、繰り返しの答弁になって申しわけないんですけど、まずはかかわるところとまず話をしっかりしていきたいというふうに思ております。

す。以上でございます。

◆西 委員 突如のお願いにかかわらず、お答えをいただき、ありがとうございます。ぜひよろしくお願ひ申し上げたいと思います。泉州各地にも、チェーンメーカーとか自転車にまつわるところはありますんで、それこそ水平連携の中でお願ひをしたいと思います。この項目については終わらせていただきたいと思います。

同じようなシティプロモーションの話でありますけれども、2項目めに移らせていただきたいと思っております。

博物館で、今、世界遺産の関係も含めて、バーチャルリアリティーということで活用されようとされております。シティプロモーションにおいて、名所旧跡は本当はたくさん、こんなバーチャルリアリティーで表現できたら非常にいいなと思ひながら、お金もたくさんかかることですので、なかなか難しいなと思っておりますけれども、これ、どのようにお考えかお示しをいただけますでしょうか。

◎浦部 シティプロモーション担当課長 博物館でバーチャルリアリティー映像を提供する、デジタル技術を活用して、これは実際に見ることのできない、空から見た前方後円墳の全体像、百舌鳥古墳群の雄大な姿を映像で見ることができるといふ点で、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に取り組む本市のおもてなしとしては、大変有効なツールであると考えてございます。

ただ、シティプロモーションといたしましては、これ、大変すばらしい映像ではございますが、バーチャルリアリティー映像作製は大変コストもかかるため、全ての名所旧跡の魅力発信に活用するということに関しましては、その有効性、費用対効果をしっかり検討する必要があると考えてございます。以上でございます。

◆西 委員 そうなんです。たくさんコストがかかってしまう部分もあつて、有効性や費用対効果を考えなくちゃいけないということでもあります。バーチャルリアリティー、なかなか技術も進化が非常に早いですので、私が小さなころに見させていただいた技術、今となつてみるともう残念ながら陳腐化していると言わざるを得ない状況になりますんで、なかなかこのお金をたくさんかけることは大変な中で、限定的にならざるを得ないなと思っております。

そんな中で、非常に提案をさせていただきたいなと思っております。GPSは今さまざまところでGPS技術の活用がされています。そのような中で、GPSで、この場所に来れば、昔このように見えてましたよと、さすがに遣唐使がどう見えてたかという写真はな

だと思いますけれども、昭和の時代の写真等々は市民の皆さんのうちにもたくさんあるかなと思っております。利晶の杜で模型が置いてあって、その写真が、下から撮ったらまるで縮尺の問題で大きい写真のように見えるものですから、SNS等でも、私のおじいさんの住んでた家がありましたという模型の写真がSNS等で上がってるのもたくさん見ました。

そういった意味で、昔の風景が再現をされるというのは非常に気持ちをくすぐるというか、そういう側面があると思いますけれども、名所旧跡の昔の写真をぜひ、おうちにこういうところの、この場所から見た写真、13号線のどこどこから見た写真、もしくは古墳のこちらから見たらこういうふうに見えてましたという写真、そういったものをぜひ募集をさせていただいて、その写真を活用するというので、GPSを使ってその写真を活用していくということはおもしろいんじゃないかなと。映像ではないんですけども、昔の写真を活用するということがおもしろいんじゃないかなと思いますけれども、どのようにお考えか、お示しをいただけますでしょうか。

◎浦部 シティプロモーション担当課長 委員御提案いただきました、昔撮られた名所旧跡の写真を活用することは、その場所を知ってる方にとっては懐かしんでいただくことができますし、また、それを御存じない方にとっては堺の歴史に対する興味が深まると、こういったことから、シビックプライドの醸成の観点でも大変有効であると考えてございます。また、昔の写真を市民の皆様から募集するというのは、それを探していただくということで、これもまたシビックプライドが掘り起こされるとともに、今の風景と昔の写真をその場でGPSで比較していただける、見比べるということで、名所旧跡に対してさらに愛着を持っていただけるものと考えてございます。以上でございます。

◆西 委員 本当にシビックプライドは大事だと思いますので、ぜひその今掘り起こされる観点、非常にいいことだと思っております。

こういう形態で、さまざまなアプリがあります。地図アプリと連動して、先ほどの台北に行かせていただいたときも、全く知らないまちですけども、その地図アプリを見ていると、ピンが刺さっていて、ここに何ということが出てきます。同様に、この堺でまち歩きみたいなアプリを開発していただいて、その中で、地図アプリの中でピンが刺さっていて、その場所に来たら今見えてる景色とスマホで見えてる過去の写真、こういうふうに比べてこうなるんやなと見えたら非常にいいんじゃないかという意味で、安価で開発できて、非常にシビックプライドを醸成させるという意味では非常に有意義だと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎浦部 シティプロモーション担当課長 昨今、観光やまちめぐりにおきまして、スマホアプリというのは大変重要なツールの1つとして確立している、こちらのほうは我々も承知してございます。名所旧跡の写真を市民の皆さんから募集して、その写真が掲載されてるアプリというのは、そのスマホアプリの中でも先行のアプリとは違う特性を持ち、大変興味を持っていただけるかなというような意味で、有効な手段となり得ると思います。今後、アプリを開発する際にはこういった観点を踏まえて、観光部とも連携を行いつつ、委員お示しのような観点を踏まえて、その実用化に向けて検討を進めてまいります。以上でございます。

◆西 委員 ぜひ市民参加で、堺のシビックプライドをつくっていく、プロモーションが安価でできるという取り組みだと思いますので、御検討をお願いをしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

3項目めに移らせていただきます。職員表彰と自治会活動についてという項目を上げさせていただきます。

まずはお聞きをしていきたいと思いますが、職員の表彰制度としてどういったものがあるか、お示しをいただけますでしょうか。

◎宮尾 人事課長 市の職員や組織を対象とする表彰制度といたしましては、市長が行う表彰として、業務功績表彰、永年勤続表彰、職員荣誉表彰、区政推進表彰の4つの表彰がございます。

これら4つの表彰を具体的に申し上げますと、業務功績表彰は、市政の推進に多大な効果等をもたらし、顕著な業績を上げた職員や組織等を表彰するものでございます。次に、永年勤続表彰は、長年にわたり本市に勤続し、市政の推進に貢献した職員を表彰する者で、勤続30年の者を対象としております。次に、職員荣誉表彰は、職務外で広く称賛を受け、職員の名誉を高揚し、他の職員の模範となる善行を行った職員を表彰するものでございます。最後に、区政推進表彰は、区政の推進に大きく寄与した区役所を表彰するものでございます。

また、これら市長が行う表彰に準じまして、より身近な所属長である局長や区長が所属職員を表彰する部局長表彰を各部局において実施しているところでございます。以上でございます。

◆西 委員 職員の表彰の目的について、お示しをいただけますでしょうか。

◎宮尾 人事課長 職員表彰を行う目的でございますが、職員表彰は頑張る職員が報わ

れる仕組みとして、日々の職務に真摯に取り組み、他の模範となる顕著な業績を上げた職員や組織等を表彰することにより、職員のモチベーションを高め、組織の活性化を図ることを目的として実施しているものでございます。以上でございます。

◆西 委員 次に、視点が変わりますけれども、市民協働の重要性が説かれる中、本市職員さん、さまざまな場所で活躍をしていただいているのは存じ上げてるところであります。私も自治会活動幾つか参加をさせていただいてますけれども、現場、現場で各職員さんのお顔を見て、非常に大変だなと思いつつ見させていただいているところでもあります。

そんな中で、本市職員の自治会活動への参加について、どのように考えているか、お示しをください。

◎宮尾 人事課長 昨年12月に開催をされました第4回市議会定例会の大綱質疑におきまして、市民人権局長から御答弁申し上げましたとおり、本市では自治会をイコールパートナーとしてともに連携しながら、安全で安心なまちづくりを初め、さまざまな取り組みを進めているところでございます。住民ニーズが多様化、複雑化する中であって、自治会が果たす役割は今後ますます重要になってくるものと考えております。

そうした考え方のもとに、委員御質問の、本市職員の自治会活動への参加についてどう考えるかというところでございますが、自治会活動を初めとする地域活動に職員が参加することは、職員の市民感覚を一層磨き、また、行政とは異なる側面から市民ニーズを把握して、それを業務に生かすことができるようになり、職員の資質向上にもつながるものと考えております。また、職員が地域活動に参加することで、地域と行政とのよりよいパートナーシップの構築にもつながるものと考えております。以上でございます。

◆西 委員 非常にいろんな意義をお示しをいただきました。我々議員、地域にいますと、多分職員さんたちもそうだと思うんですけども、私の意見とは違うんでそう理解をしていただきたいんですけども、地域の方に何を言われるかという、最近、自治会にたくさん仕事を渡し過ぎやと。そんな中で、自治会に入らんとらん職員、公務員もおると。ここから先は私の自分の意見ではありませんけれども、つまり、職員さんを、もう自治会の参加は当然義務づけんかいと、参加して当たり前やろうと。義務づけろという声があるのは事実でございますし、各職員さんとお話をさせていただいても、そういうことを言われますよという話を聞くことはあります。これは、自治会組織に強制加入なんて参加させられないのは、私はよくよくわかっておりますので、そこは意見ちょっと違いますけれども、そういう声があるのは事実でありますし、ここにいらっしゃる委員さんたちもそういうことを、各地域で

日々声をたくさん聞いてると思います。

そんな中で積極的な、確かにこの仕事、非常に自治会へ渡す仕事は非常にふえてるのは事実でありますので、そういう声が出てくるのも、一定理解、一定ですけども、一定理解できる場所でもあります、そういう職員さんの自治会活動へ積極的な参加を促すために、職員の方々に、自治会参加、忘れてませんかという通知も出されたというふうにお聞きをしておりますけれども、職員の方々に宛てに、自治会へぜひ加入してくださいという通知を出していただいているというふうには聞いております。

実際、そういう参加をする中で、例えば私が相談役をしてる校区では、第2金曜日の7時半から自治会の校区の会議が開かれます。そういった意味で、じゃあそこに参加をしようと思ったら、職員さんは何時に仕事を一旦終えて、出なくちゃいけないんだろうなと思うと、非常に、私の校区で一旦家に荷物を置いてから出ようと思ったら、多分6時半にはこの庁舎を出なくちゃいけないんだろうなと思いながら思っております。議会の前日で、通告の調整だったり質問の調整が大変でも、6時半には役所を出ないと自治会からは、市の職員のくせにおくれやがって、何してんねんと言われる。逆に職場では、議会の前日やのに、何を早く帰ってるんやと言われるということが起きてくると思います。

当然お互いいろいろと調整をしていただかなきゃいけないことは多々あると思いますけれども、せつかくいろんなことを調整をしながら自治会活動に参加をしていただいている職員さん、いろんなことを言われることもたくさんあるというふうに、具体的にここで申し上げるのはあえて避けさせていただきますけれども、いろんなことを言われてる中で地域活動に参加をしていただいている職員さん、たくさんいらっしゃると思います。余り言われ過ぎると、もうそんなことだけで堺市に住んでないわけじゃないですけども、堺市から出ていきたいなという声も聞いています。せつかく頑張ってくださいる職員さん、たくさんいらっしゃるわけですから、こういった自治会活動を初めとする地域活動に積極的に取り組んでる職員さんは、ぜひ表彰していただきたいなと思っております。

そういった中で、どの範囲までやるかというのはいろいろあると思いますけれども、そういった中で上司の方々に、部下の誰々さんは自分の地域でいろんなことありながらも頑張ってくれてるんやなということは理解が広がると思いますし、そうやって頑張ってくださいる職員さん抜きに、もう成り立たなくなっちゃってる自治会活動があるのも事実であります。そういった意味で、そういう頑張っている職員さんを表彰するということについて検討できないか、お答えをいただけませんかでしょうか。

◎宮尾 人事課長　　ただいま、委員のほうから、自治会活動の重要性でありますとか、あるいは地域の声について、るる御指摘をいただいたところでございます。また、本市の自治会活動初め地域活動に対する考え方について御答弁も申し上げたところでございます。

これらを踏まえまして、職員の方々の地域活動への参加促進につながる方策について、委員御指

摘の表彰制度の活用も含めまして、関係部局と連携しながら研究をしてみたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

◆西 委員　ぜひよろしく願い申し上げまして、質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。